

千葉県松戸市におけるベビー休憩室の設置実態に関する研究

日大生産工 (院) ○平野三奈 日大生産工 古田 莉香子
日大生産工 広田 直行

1. はじめに

1-1. 背景と目的

授乳とおむつ替えは、乳児との生活において中心的な行動である。それによって、外出時に生じるおむつ替えや授乳は、外出することへの障害となっている場合がある。

商業施設や公共施設において、子育て世代の外出支援策の後押しもあり、授乳とおむつ替えができる場所として「ベビー休憩室」の整備が進められている。しかし、明確な設計指針がなく、施設によって設備が異なることが現状である。そのため、利用者が必ずしも快適に利用できない事例もみられる。

近年このベビー休憩室は自治体と民間事業者とが協力して、公共施設だけでなく、様々な用途の施設に対して「赤ちゃんぽけっと」等として登録を行う事業(以下「赤ちゃんぽけっと」事業とする)の展開がみられる。

そこで本研究では、自治体における「赤ちゃんぽけっと」の整備状況に対し、規模、立地、運用などの視点から設置の規準と設置施設の分類を明らかにすることを目的とする。ベビー休憩室登録施設における空間の利便性向上の一助となることを期待する。

1-2. 既往研究

若竹らの「福岡市における「赤ちゃんの駅」の設置実態について」(2021)によると、授乳の場の提供(以下「授乳」とする)、おむつ替えの場の提供(以下「おむつ替え」とする)、ミルク用お湯の提供(以下「お湯」とする)は、ベビー休憩室を構成する主要な機能に位置付けられている。それらの3つの機能は、登録施設においてそれぞれ単独あるいは組み合わせでの設置となっていることが明らかにされている。

1-3. 研究の方法

本稿では、千葉県松戸市において「赤ちゃんぽけっと」として登録されている74施設を対象とする。

松戸市では、ベビー休憩室の設置として「赤ちゃんぽけっと」事業としての登録を進めている。2022年6月3日時点で74施設が登録されている。

松戸市におけるベビー休憩室の登録状況、設置機能及びベビー休憩室の設置されている施設の用途を把握するために、ベビー休憩室についての情報が提供されている松戸市のホームページ^{注1)}より、文献調査を実施する。まず、松戸市における「赤ちゃんぽけっと」に関わる規準を把握するため、規準の構成、登録規準についての調査を行う。次に、「赤ちゃんぽけっと」の設置実態を明らかにするために、松戸市のホームページに記載されている「赤ちゃんぽけっと」の全ての登録設置施設74施設を対象として、設置機能の実態から、設置機能と施設用途の関係について分析・考察を行う。

2. 松戸市の現状

2-1. 松戸市の概要

松戸市は、千葉県北西部に位置しており、松戸市の人口は約49.8万人、市域面積は61.38km²である。松戸市は、千葉県北西部に位置しており、都心へは約20km、県庁所在地である千葉市には32kmの距離にある。松戸市の人口は約49.8万人、市域面積は61.38km²である。

松戸市は、9地区で構成されており、松戸地区、常磐平地区、小金地区、小金原地区、六実地区、馬橋地区、新松戸地区、矢切地区、東部地区となっている。

2-2. 年齢別人口分布

図1より、松戸地区の0歳～3歳の人口分布をみると、松戸市全体の27.2%を占めている。これは、松戸市内で0歳～3歳の人口が最も多いことがわかる。

松戸地区には、松戸市の中心である松戸駅があり、都心をはじめとした各方面からのアクセスがよく大学との地域の連携による子どもたち向けイベントが多いことが特徴である。次いで、常磐平地区が2,552人で19.4%を占めている常磐平地区は、子育てをサポートする施設が充実していることが特徴であり、子育て世代が多いことがわかる。

東部、馬橋、小金、新松戸地区は15%以下であり、子育て支援センター、公園、2016年に新設された小学校が開校するなど子育て世代が増加している地域である。

A Study on Installation “Baby Pocket” in MATSUDO City

Mina HIRANO, Rikako FURUTA and Naoyuki HIROTA

矢切、小金原、六実地区は5%未満で、整備された閑静な住宅街である。また、公園、市民センター、子育て支援センターなどが多い地区である。

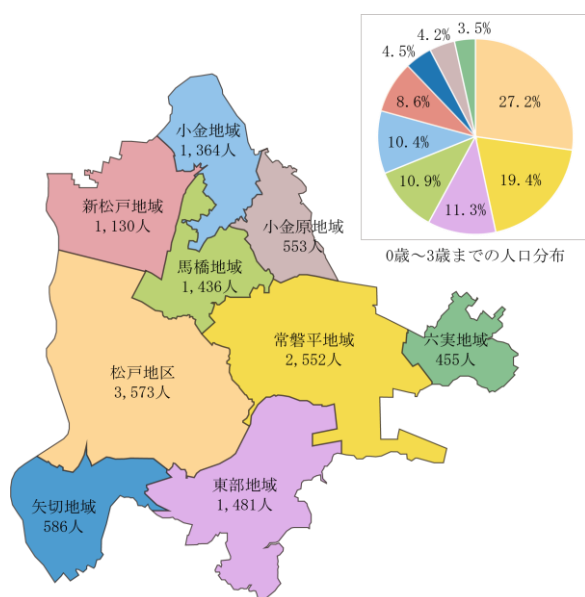


図1 地区別の0歳～3歳までの人口分布

2-3. 松戸市の取り組み

2022年4月現在、松戸市は、待機児童7年連続ゼロを達成している。保育所(園)が68園、幼稚園36園、認定こども園が11園、小規模保育施設が117園あり、5年前と比較し、81施設増設されている。また、待機児童の大部分を占める0歳から2歳児の受け入れのため、小規模保育施設の整備が進められ、その数は県下トップである。

また、松戸市の子育て支援事業は、児童手当、子ども医療費助成、入院助成制度、幼児同乗用自転車等購入支援事業助成金等の制度が充実していることも松戸市の特徴の1つとしてあげられる。加えて、共働き子育てしやすい街ランキング総合編1位、日本子育て支援対象2021、2020年度千葉県ベスト育児制度賞^{注2)}、ベビー&バースフレンドリータウン賞、松戸市私立幼稚園預かり保育助成金などの評価を得ている。

松戸市は、概ね0歳から3歳の乳幼児とその保護者が気軽に集える場として「おやこDE広場」「子育て支援センター」を整備しており、遊びや交流、友達づくりや子育て相談の場として利用可能な場が提供されている。また、松戸市内在住の子育て世代を対象とし、インターネット子育て相談を行っている。

以上のように松戸市では、子育てに関する豊富な助成金制度、保育機関の充実、子育て支援としての遊びや交流の場の提供が充実していることがわかる。

3. 「赤ちゃんぽけっと」の概要

3-1. ベビー休憩室の概要

ベビー休憩室は、「ベビールーム」「赤ちゃん休憩室」などがあり、授乳、おむつ替えができる空間を指す。また、子育て世代にとって外出時の負担となる授乳のサポートとして授乳室、調乳設備といった機能もみられる。このベビー休憩室は、設置されている施設の規模や用途によって設備の違いがある。利用目的は、おむつ替え、授乳、食事、着替え等、赤ちゃん連れでの外出には必要不可欠な場所である。

近年、ベビー休憩室はハード面において改善がみられるが、一方で、明確な整備指針がないため、施設によって環境が様々であることが問題とされている。また一般的にベビー休憩室は、自治体のホームページなどで公開され、探すことができるようになってきている。

3-2. 「赤ちゃんぽけっと」の位置づけ

松戸市では、地域子育て支援事業の取り組みの一環として、市内の登録施設において授乳・おむつ替えスペースの提供等を行い、子育て世代が気軽に外出できるように地域ぐるみで子育てを応援することを事業目的としている。授乳やオムツ替えの設備を備え基準を満たした施設に対して、「赤ちゃんぽけっと」として登録を許可している。

2-3 空間に関するガイドライン

松戸市役所からいただいた資料をもとに、「赤ちゃんぽけっと」において主要機能となる「授乳」「おむつ替え」「お湯」の3つに関する空間のガイドラインを表1に示す。

表1より、「赤ちゃんぽけっと」の空間に関するガイドラインにおいて、「授乳」は、パーティションで仕切られたスペースなどプライバシーに配慮した場であることが示されている。「おむつ替え」は、衛生面についてのみ示されている。「お湯」は、70℃以上に保つことなど「お湯」の管理方法について示されている。

表1 空間に関するガイドライン

授乳スペース
・利用者が外部の目を気にせず授乳ができる場
・パーティション等で仕切られたスペース
・衛生面に配慮し、定期的に清掃
おむつ替えスペース
・衛生面に配慮し、定期的に清掃
・オムツ等のごみは利用者が持ち帰る
ミルク用のお湯の提供
・70℃以上に保つこと
・沸かした後30分以上放置しないこと

4. 「赤ちゃん・ぼけっと」の実態

4-1. 規準の構成

「赤ちゃんぼけっと」の登録に関する基準は、ホームページより、市内の施設で小さな子どもを連れて子育て世代が利用可能な「授乳」「おむつ替え」の提供を行っている。また、可能な施設においては、ミルク用のお湯の提供を行っている。授乳において、必ずしもお湯を必要とすることはなく、ミルクづくりにおいてお湯の設備があることは有効であるといえる。

4-2. 機能別の設置実態

「赤ちゃんぼけっと」の主な機能である「授乳」「おむつ替え」「お湯」の3つの機能をタイプ別に分類し、登録施設ごとに比較したものを表2に示す。「授乳」「おむつ替え」は、74施設の登録施設中すべての施設において設置がみられる。そのため「赤ちゃんぼけっと」において、「授乳」「おむつ替え」は、主要な機能であることがわかる。一方で、登録要件とはなっていない「お湯」については、66施設において設置がみられる。設置率は、89.1%と高く、「赤ちゃんぼけっと」の過半数に「お湯」の機能が設置されていることがわかる。また、「お湯」の設置は、施設の給湯室などでまかなえるため、設置されない場合があると考えられる。

4-3. 登録施設の用途分類

「赤ちゃんぼけっと」が登録されている施設用途の傾向をみる。登録施設の用途について分類整理^{注3)}したものを表3に示す。表3より、登録施設用途は、教育・文化・スポーツ・集会・商業・福祉・レクリエーション・業務・都市自治

施設の9つの用途に分類できる。用途分類の中で最も多い用途は、福祉施設で全74施設中39施設(52.7%)となっている。次いで、集会施設の13施設(17.6%)、業務施設の8施設(10.8%)と続いている。これら3つの用途の設置割合はそれぞれ全体の10%を超えている。

4-4 登録施設の分布

登録施設の分布と設置された機能を地区ごとに分類したものを図2に示す。地域ごとの分布をみると、松戸地区、新松戸地区、常磐平地区に登録施設が多いことがわかる。

最も登録施設の数が多い松戸地区では、市の中心駅である松戸駅があり、登録施設の用途は異なるが駅周辺に登録施設が密集していることがわかる。

常磐平地区では、地区内に常磐平駅、五香駅、元山駅があり、駅周辺を中心に登録施設が広がり、広範囲に分布している。

新松戸地区では、地区唯一の駅である新松戸駅の周辺に登録施設が広がり分布している。新松戸駅は、松戸駅に並ぶ交通の要所であるため、登録数が多くなっていると考えられる。

小金地区、馬橋地区、東部地区では、駅周辺において分布が広がっており、駅を離れた場所では、登録施設はあまり見られない。

小金原地区と六実地区は、地区の中心に駅はないものの、地区中央に登録施設が分布し広がっている。特に、小金井地域では、福祉施設の登録が多いことが考えられる。

表2 施設機能の分類

施設用途	施設数	施設機能のタイプ	
		A	B
教育施設	3	3	0
文化施設	2	0	2
スポーツ施設	1	0	1
集会施設	13	8	5
商業施設	2	2	0
福祉施設	39	39	0
レクリエーション施設	4	4	0
業務施設	8	8	0
都市自治施設	2	2	0
総数	74	66	8
凡例			
タイプA：授乳+おむつ替え+お湯			
タイプB：授乳+おむつ替え			

表3 登録施設の用途

施設用途	登録施設	施設数	割合
教育施設	公民館 大学 幼稚園 リサイクルプラザ	3	4.1%
文化施設	博物館 美術館 文化センター	2	2.7%
スポーツ施設	スポーツセンター 市民プール 競技場 体育館	1	1.4%
集会施設	市民センター 市民交流センター 男女参画センター 会館 コミュニティカフェ	13	17.6%
商業施設	大型ショッピングセンター コンビニ 百貨店 複合商業ビル	2	2.7%
福祉施設	保健福祉センター 子どもプラザ 市民福祉プラザ 保育所(園) 児童福祉センター 託児所	39	52.7%
レクリエーション施設	レクリエーションセンター 国営公園 公園事務所	4	5.4%
業務施設	相談所 支援センター	8	10.8%
都市自治施設	市役所	2	2.7%
合計		74	100.0%

一方で、矢切地区は登録施設数が少なく、駅の周辺にも分布は見られないが、市の中心地である松戸地区の付近において分布がみられる。

よって、駅の周辺に登録施設が広がっており、松戸地区、新松戸地区、常盤平地区では、地区全体に分布がみられる。また、駅から外れた登録施設では、福祉施設が最も多く地区全体に分布している。これは、福祉施設に保育所が含まれるためと考えられる。



図2 登録施設の分布と機能

5. まとめ

本研究では、千葉県松戸市を対象地区とし文献・資料の分析から、今後のベビー休憩室登録施設の質の向上において重要となる「赤ちゃん・ぼけっと」の状況に対して、自治体における規模、立地、運用などの特徴を整理し、設置の規準と設置施設の分類を明らかにした。結果を以下に示す。

松戸市独自の子育て支援の取り組みとして、小規模保育施設数が県下トップであることや児待機児童ゼロ子育てへの助成金が豊富なこと、乳幼児とその保護者が気軽に集える場所の提供が多数行われていることで、子育てが行いやすい街であるといえる。

「赤ちゃん・ぼけっと」は、松戸市内で0歳～3歳の人口が最も多い松戸地区、次いで人口の多い常盤平地区に登録施設数が多いことがわかる。松戸市内の主要な駅があり、それに伴い、駅の周辺に登録施設が分布していると考察できる。また、地域と連携した子ども向けのイベント、子育て支援センターなどが多数あり、子育てサポートの充実していることがわかる。

馬橋、小金、新松戸地区の子育て世代が増加している地域は、駅周辺に分布がみられ、駅から離れた場所の登録は少ないことがわかる。

矢切、小金原、六実地区の0歳～3歳の人口分布が少ない地域は、公園や支援センターが多くその周辺に分布が広がっている。駅周辺以外に分布が広がっている登録施設は、保育所が含まれている福祉施設が多いことがわかる。矢切、小金原、六実地区は住宅街が広がっていることから、福祉施設が分布していると考察できる。

今後の課題として、キッズスペース、施設内相談所を含めた設置機能と施設用途の関係を示すこと、利用者の割合や関係性や配置計画による利用実態調査を進めていくことで、ベビー休憩室登録施設の質の向上の一助となることを期待する。

注

注1) 松戸市ホームページ（参照：2023.10.11）
<https://www.city.matsudo.chiba.jp/kosodate/matsudodekosodate/index.html>

注2) 育てに良い商品、サービスがたくさん生まれてくることを支援していくもので、子育てママとパパ、さらにはその祖父母が実際に“役立った価値”を大いに評価する賞

注3) 日本建築学会編「地域施設の計画 21世紀に向けた生活環境の創造」、丸善(1995)、p5に示されている「地域施設を含む都市計画の対象施設」を用いて分類を行った。

参考文献

- 1) 若竹雅宏、広田直行「福岡市における「赤ちゃんの駅」の設置実態について」日本大学生産工学部第54回学術講演会講演概要、pp.704-707、2021.12
- 2) 若竹雅宏、広田直行「ベビー休憩室の設置実態と利用者意識の関係について—福岡市を対象として—」地域施設計画研究 40、pp.373-382、2022.7
- 3) 仲綾子、内田将夫「ベビー休憩室コンセプトブックの開発と評価」日本建築学会技術報告集、第21巻 第49号、pp.1173-1176、2015.10
- 4) 仲綾子、谷口新「複合商業施設における行動観察調査にもとづくおむつ替えゾーンを中心としたベビー休憩室の利用実態と計画課題」日本建築学会計画系論文集、第81巻、第724号、pp.1259-1268、2016.6
- 5) 田才知未、森傑「男女共同参画からみた親子休憩室の実態と課題-札幌市内における商業施設を対象として-」日本建築学会計画系論文集、第76巻、第666号、pp.1379-1388、2011.8
- 6) 張美琴、頼文波「ベビー休憩室の空間構成と利用状況評価に関する研究」日本感性工学会論文誌、Vol.19 No.4、pp.343-352、2020.